

令和3年度

フーズ・ヘルスケア オープンイノベーションプロジェクト戦略検討委員会

令和4年2月17日（木）14:00～15:30 Web開催

プロジェクト  
の取組

【目標】  
・食を中心とする健康増進社会の実現  
・異分野の融合によるイノベーションの創出

【指標】  
・静岡県健康寿命 日本一  
・食料品等の付加価値労働生産性 日本一

具体的な展開

## 戦略1：きわめる（研究開発）



オープンイノベーションやデータ活用による  
研究開発の推進

- ・ファルマ, フォトン, AOI, MaOI, ChaOIとのプロジェクト間連携
- ・大学シーズやSR等の成果の公開
- ・健康データを活用したデータ駆動型の研究開発

## 戦略2：つくる（製品開発）



競争力のある高付加価値製品の開発

- ・県産農林畜水産物を活用した機能性のある製品開発
- ・優れたものづくり技術による生産性の向上（加工機械、フードロス）
- ・肥沃な土づくりによる豊かな農産物の展開
- ・健康情報を見える化するデバイス等の開発支援

## 戦略3：いどむ（ヘルスケア）



データヘルスの実践による健康機能の維持・増進

- ・県民の健康データの収集と活用（データヘルス・リビングラボ）
- ・健康課題に対応した製品・サービスの開発（フレイル、メタボ等）
- ・ヘルスケア産業の創出（食や運動を含む健康プログラムの開発）
- ・幼年期の食生活の向上と食育の充実

## 戦略4：とどける（販路開拓）



社会の環境変化を踏まえたマーケットインによる  
販路拡大とサービスの提供

- ・地域のブランディングによる商品価値の創造
- ・現代のライフスタイルや健康状態に応じた商品とサービス展開

## 戦略5：そだてる（人材育成）



産業人材等の育成と開発環境の  
充実によるクラスター形成

- ・健康講座などによる県民の社会参加促進と健康リテラシーの向上
- ・総合食品学講座の拡充
- ・健康イノベーション専攻の設置（静岡県立大学）

## 戦略6：ひろめる（情報発信）



「食の都」の内なる国際化と魅力ある静岡の  
食文化の発信

- ・ハラール等に対応した食の展開
- ・GAPやHACCP等の国際規格への対応支援
- ・静岡型健康食の海外ビジネスの展開

産業競争力  
の向上  
  
食を中心とする  
ヘルスケアの推進

### 機能性食品開発プラットフォーム

- ・相談から届出、販路まで一貫支援
- ・フーズ・ヘルスケア オープンイノベーションセンターと県立大学にて整備
- ・素材開発を強化

### 化粧品開発プラットフォーム

- ・化粧品素材開発及び製品化を支援
- ・農林水産物の付加価値向上

### FHCaOIフォーラム

- ・企業等が集まる出会いとイノベーション創造の場

### データヘルス・リビングラボ 静岡

- ・県民参加による実証フィールド
- ・サイエンスに基づくデータを収集
- ・新たなサービス創造の場

取組を  
支える体制

分野	製品開発プロセス				人材育成 開発環境の充実 戦略5
	研究開発 戦略1	事業化 戦略2	販路開拓 戦略4	海外展開 戦略6	
食品	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究機関による基礎研究 (64件)</li> <li>機能性食品開発助成 (2件支援)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食品等開発助成 (6件支援)</li> <li>新事業創造研究会 (5部会支援)</li> <li>コーディネーター支援(1,208件)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>展示会出展支援 (商談のべ136件)</li> <li>国内テストマーケティング(22社38品)</li> <li>地域ブランディング</li> <li>販路開拓アドバイザー支援(589件)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外テストマーケティング (12社30品)</li> <li>DXによる海外販路開拓 (5カ国で展開)</li> <li>海外展示会出展支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合食品学講座 (24名受講)</li> <li>企業誘致の促進 (6社)</li> </ul>
化粧品	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究機関による基礎研究 (14件)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>化粧品開発助成 (3件)</li> <li>コーディネーター支援(239件)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>展示会出展支援 (商談のべ741件)</li> <li>コスメマルシェ (6社)</li> <li>販路開拓アドバイザー支援(再掲)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>越境ECを活用した海外市場調査 (2社4品)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>セミナー (109名参加)</li> <li>企業誘致の促進 (再掲)</li> </ul>
ヘルスケア 戦略3	<ul style="list-style-type: none"> <li>リビングラボ (モニター200人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リビングラボ活用事例(3件)</li> <li>ビジネスモデル構築 (5件支援)</li> <li>健康食メニュー開発 (17事業者)</li> <li>コーディネーター支援(339件)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>展示会出展支援 (再掲)</li> <li>国内テストマーケティング(再掲)</li> <li>販路開拓アドバイザー支援(再掲)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外テストマーケティング(再掲)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康イノベーション教育プログラム (59名受講)</li> <li>セミナー (153名参加)</li> </ul>

# 戦略1 「きわめる」オープンイノベーションやデータ活用による研究開発の推進

## 戦略計画 の内容 Plan

### 1 戦略の内容

先端科学技術拠点等との連携やオープンイノベーションの「場」の創出、健康データなどの活用により、研究開発を推進します。

### 2 主な取組

- 先端産業創出プロジェクトとの連携
- 研究機関との連携強化
- 企業連携を促進するフォーラム
- 健康データなどを活用したデータ駆動型の研究開発
- 海外研究機関との連携

## 取組実績 Do

### 1 取組状況

- AOI、MaOIプロジェクト等、先端産業創出プロジェクトとの連携による研究開発の推進
- 異業種から食品、化粧品産業分野への参入を目指す地域企業やベンチャー企業を支援
- 県立大学・県工業技術研究所等と連携した素材開発の推進
- FHCaOIフォーラム会員向けセミナー等の情報発信の実施

### 2 取組実績（R3年度）

- ◇ 産学官の連携による研究件数：78件
- ◇ 企業参加型オンラインコミュニティ「しずおか産業創造プラットフォーム」を構築
- ◇ 「テクノロジー静岡」掲載件数：137社 うちFHCaOI関係35社、プロジェクト連携会議の開催
- ◇ 機能性表示食品等研究開発推進事業助成金（補助率2/3、限度額1,000万円）：2件、1,990万円
- ◇ 県工業技術研究所で県産農林水産品を活用した化粧品素材開発の実施
- ◇ FHCaOIフォーラム会員：1,517会員（飲食店、ホテル、旅館業者など約300社増）
- ◇ 会員向けフォーラム及びセミナーの開催（健康食・化粧品各2回）

## 進捗評価 Check

- ✓ 県産業政策課による先端産業創出プロジェクト間の交流スキームの構築や、県工業技術研究所を中心とした産学官連携による研究開発が進められている。
- ✓ FHCaOIフォーラム会員は順調に増加しており、会員向けフォーラムやセミナーの開催により、企業や研究機関同士のマッチングが促進できている。

## 来年度以降 に向けて Action

- 「しずおか産業創造プラットフォーム」や「テクノロジー静岡」について、各プロジェクトのコーディネーターと連携し、活用促進に向けたPRや新規のサイト掲載企業の増加を図る。
- 産学官の連携による研究から生まれた成果について、事業化に向けた製品開発・販路拡大を強化する。

# ○戦略1 取組事例① 先端産業創出プロジェクトや研究機関との連携

(県産業政策課、フーズ・ヘルスケア オープンイノベーションセンター、県工業技術研究所ほか)



しずおか産業創造プラットフォーム

## 【概要】

- ファルマバレー、フotonバレー、AOI、MaOI、ChaOI、CNFなどの先端産業創出プロジェクトが展開されており、本プロジェクトとの連携が進んでいる
- 県産業政策課にて、各プロジェクトの垣根を超えた企業間の交流等が可能なプラットフォームを構築
- 県立大学など大学のシーズをデータベースで公開し、企業活動を促進するとともに、県工業技術研究所などにおいて大学や企業との連携による研究を促進

## 先端産業創出プロジェクト間の連携

### ○「しずおか産業創造プラットフォーム」の構築 (R3.12月運用開始)

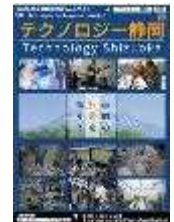
- ・ FHCaOIプロジェクト関連の補助金概要、募集状況を含む国、県等の支援情報を一元的に発信
- ・ オンラインコミュニティへの登録により、各プロジェクトの垣根を越えて、様々なメンバーとの困りごとや協業の相談等が可能



### ○「テクノロジー静岡」の運用 (FHCaOI関係企業35社掲載)

- ・ 令和2年度に開設した県内企業の技術情報Webサイト「テクノロジー静岡」について、各プロジェクトの事業コーディネーターによる助言を元に掲載内容を充実化

県産業政策課×各先端産業創出プロジェクトの事業コーディネーター



## 県工業技術研究所と大学・企業の連携による研究開発

### ○東海大学、静岡市産学交流センターと連携した食品開発

- ・ 共同開発したカツオ香り・呈味エキスを添加したレトルトカレーの開発 (R3.4月発売)

工技研×東海大学×静岡市産学交流センター×県内企業3社



### ○ChaOIと連携した乳酸発酵茶葉とそのメニュー開発支援

- ・ 一番茶を活用した「食べる発酵茶」開発に向けた試験研究

工技研×ChaOI×東京農業大学

×梅ヶ島食べる発酵茶試験研究コンソーシアム (代表機関 隠れ茶を守る会)



## 新たな機能性食品素材の探索研究

- 令和元年からプラットフォームの機能性強化のため、県立大学において、フレイルや認知症等をテーマとした新たな素材探索を研究
- 研究成果は機能性食品データベースに順次公開(研究中素材35件、届出素材8種79商品の情報を掲載)

### ○新たな素材探索研究の実施

- 県大における機能性成分研究を強化
- フレイル予防・認知症対策をテーマに学内で行われていた研究を整理し重点的に推進

動脈硬化抑制作用を示すBAIBA(3-アミノイソ酪酸)のフレイルに関連した研究などを実施

## 機能性表示食品等研究開発助成(R3年度)

- 機能性表示食品等の製造販売を目的とした研究開発や事業化のために行うヒト介入試験や遺伝子解析等の産学共同研究等を支援

(補助率:2/3、限度額:1,000万円)

企業名	テーマ
フジ日本精糖(株)	イヌリン(水溶性食物繊維)の睡眠の質向上効果と粘膜免疫との相関関係に関する臨床試験(ヒト介入試験)
日研フード(株)	静岡県産青みかんエキスの機能性(抗アレルギー)評価試験及びエキスを活用したドリンクの届出・製品化(ヒト介入試験)

## 県産農林水産品からの化粧品素材の開発

- 県工業技術研究所にて、200種以上の素材の中から、化粧品開発に有望な機能性素材を探索
- 県工業技術研究所と県立大学は、共同で候補素材に関する機能性評価研究を8課題実施(成果発表:令和4年3月24日(木)開催)

### 共同研究テーマ

薬剤科学的アプローチによる化粧品素材研究

メラニン産生促進メカニズムの解析と阻害分子の探索

糖鎖科学を基盤とした革新的なスキンケア研究

ほか5件

### 素材

茶の実  
県下全域



### 研究開発状況(R4.2時点)

新たな機能性(光保護機能)を発見し、共同特許を出願済(R元~3の研究成果を活用)

# ○戦略1 今後の取組（研究成果の事業化及び販路開拓・拡大支援の強化：化粧品の場合）

県工業技術研究所を中心とした産学官連携により生まれた研究成果を県内企業の売上げ増加につなげるため、事業化に向けた製品開発に加え、販路開拓・拡大を強化していく。

## ○地方創生推進交付金を活用した研究開発から製品化への支援（H30～R3）



### 県産バラを活用した産学官連携による製品化事例

素材	支援機関	支援内容	製品化
バラ 	工業技術研究所 静岡県立大学	CNFを配合する際の処方を開発 バラの香りの機能性を評価	(株)コーヨー化成 スキンモイスチャライザー (R4.2発売) 

## ○令和4年度以降の取組

開発された素材や製品の売上げ増に向けた支援の強化が必要

### 開発素材・製品の販路開拓・拡大支援

素材・製品	活用先、販路の開拓
青ミカンエキス 	大手化粧品企業による素材の活用 県内のOEM企業同士の新たな製品開発  県内の特産品取り扱い店等での販売  BtoBのマッチングの機会（商談等）の創出を支援
茶の実スキンオイル 	

# 戦略2「つくる」競争力のある高付加価値製品の開発

## 戦略計画 の内容 Plan

### 1 戦略の内容

機能性食品の開発や先端技術を活用した製品など、時代に即した競争力のある高付加価値製品の開発を目指します。

### 2 主な取組

- 先端科学技術拠点における成果の活用
- 製品開発を支援するプラットフォームの充実
- 県産農林畜水産物や地場産業を活用した製品開発の促進
- あらゆる角度からの付加価値の向上
- 人手不足への対応

## 取組実績 Do

### 1 取組状況

- コーディネーターによるAOI-PARC等との共同開発
- 機能性表示食品開発プラットフォームの運用
  - ・ 新たな素材探索研究の実施と素材データベースの更新
- 付加価値向上のため、助成金に特別枠を設けるとともに、新たな研究会事業を運営

### 2 取組実績（R3年度）

- ◇ 製品化数：27件 うち機能性表示食品11品目（R3.12月末時点）
- ◇ 素材データベース掲載：届出素材8種79商品、研究中素材35件（R3.12月末現在）
- ◇ 食品等開発助成（補助率1/2、限度額200万円）：6件、753万円
- ◇ 化粧品等研究開発推進事業助成（補助率1/2、限度額500万円）：3件、687万円
- ◇ 新事業創造研究会：5グループ（12社）

## 進捗評価 Check

- ✓ プラットフォームを活用した機能性表示食品が事業化されるなど、順調に地域企業の製品化が図られた。
- ✓ 新型コロナウイルス感染拡大や気候変動による災害増加などによりSDGsへの注目度が高まっている。
- ✓ 健康訴求性を高めた商品やおいしい非常食など、社会的ニーズを踏まえた商品開発や食品ロスの削減など、社会的課題を解決する技術開発を通じたあらゆる角度からの付加価値の向上が必要

## 来年度以降 に向けて Action

- 食の課題解決や食によるより豊かな価値提供を創り出すため、食関連の技術開発(フードテック)を推進
  - ・ 県内企業のシーズやニーズ等の把握のため、セミナーやワークショップを開催
  - ・ 研究会を立ち上げ、事業者間の協業による事業化を促進
- ムードフードや非常食をテーマとした製品開発を行う企業の掘り起こしと事業化支援を行う。





「プラットフォーム」から生まれた製品（機能性表示食品（ブロッコリー）と化粧品（スキンオイル））

【概要】

<食品>

○静岡県は、加工食品の製造など食品関連産業が盛んであり、食品や飲料等の付加価値額の合計は日本一（R元：8,189億円）

○全国に先駆けて、相談から科学的根拠の証明（SR、ヒト介入）、国への届出までを一貫して支援する「機能性食品開発プラットフォーム」を設置

<化粧品>

○静岡県における化粧品生産金額は、全国トップレベル（R2：1,298億円、全国第5位）

○平成30年度から国の地方創生推進交付金を活用し、県産農林畜水産物を活用した素材開発や機能の研究、製品化を支援

## 機能性食品開発プラットフォーム

機能性表示食品の開発を、相談から科学的根拠の証明、消費者庁への届出まで一貫支援



○機能性表示食品の届出状況

- ・全国の届出件数：4,361件（令和3年11月末）
- ・静岡県内企業による届出は224件（全国第4位）
- ・静岡県内製造は1,572件で日本一(全体の36%)
- ・プラットフォームによる支援件数：39社72品目



GABA配合の菓子

## 化粧品開発プラットフォーム

県産農林畜水産物を活用した素材開発を進めるとともに、素材に関する科学的なエビデンスの構築等を行い、県内企業の事業化を支援



○事業化を目的とした研究開発、実証等の件数

・61件（H30～）



練り香水

食品等開発助成 (R3年度)

(補助率: 1/2、限度額: 200万円)

企業名	テーマ	事業化に向けた取組	備考
(株)桃中軒	プロトン凍結と真空包装機を活用した食品ロス削減	冷凍・真空包装した弁当の試作品完成 R4.4月発売予定	食品ロス削減
J A 三島函南	機能性表示食品として届出が可能なGABA高含有馬鈴薯(メークイン)の開発	成分分析、表示デザイン作成完了 R4.2月中の届出を目指す	AOIと連携
フジ日本精糖(株)	イヌリンを活用した化粧品の開発	安全性試験・試作品の製造完了、R4秋頃販売予定	化粧品

他3件

新事業創造研究会 (R3年度)

企業名	テーマ	開発する製品の概要
(有)松永製餡所、ヤマキ(株)	未利用食材の活用	煮汁、フスマを利用した菓子販売
(株)七富乳業、大津屋物流、Poli Poli	未利用食材の活用	ホエイを活用した商品開発
(有)カネナカ商店、ヤマキ(株)	未利用食材の活用	販売不可能なしらすを利用した商品開発
(株)ハチマル、静岡県産醤油(株)	発酵食品	こだわり醤油の製造
(株)アグリ浜名湖、遠州柯-ブ、掛川柯-ブ、山本勝重柯-ブ農園	未利用食材の活用	オリーブ残渣の亜臨界抽出エキスの開発

<新事業創造研究会>

対象: 戦略計画に沿ったテーマ(ウェルネスおやつ、発酵食品など)で参加企業を募集し、企業連携による商品開発を支援

補助額: 1研究会あたり10~50万円



たたみいわしチョコレート

化粧品等研究開発推進事業助成 (R3年度)

(補助率: 1/2、限度額: 500万円)

企業名	テーマ	事業化に向けた取組	備考
(株)コーヨー化成	静岡県産バラを活用した高保湿オールインワンジェルの開発	試作品完成済み R4秋頃からの販売を目指す	CNF配合 県産バラローズ水抽出
フェイスラボ(株)	静岡県産茶実外果皮を利用した化粧品原料および化粧品の開発	抗ウイルス効果が確認され、試作品が完成。R5から顧客へ提案開始	産学連携 県産茶実副産物

他1件

# ○戦略2 今後の取組 (フードテック振興)

新型コロナウイルス感染拡大や気候変動による災害増加などによりSDGsへの注目度が高まっている。持続的な発展のため、食糧不足や環境負荷軽減など、食に関するさまざまな社会課題の解決に寄与するフードテックを推進し、あらゆる角度からの付加価値の向上を図る。

- ・フードテックとは、「食(Food)」と「技術(Technology)」の融合。バイオサイエンスやIoTや人工知能(AI)をはじめとするデジタル技術などの融合で起こるイノベーションの総称。
- ・例えば、培養肉、代替肉(植物肉)、完全栄養食、昆虫食、植物工場、陸上養殖、養殖・畜産×IoTテクノロジー、パッケージング、Dtc、食のパーソナライズ化、新調理器具、調理ロボット、3Dプリンター、キッチンOSなど



○フードテックの広義的な定義

(出所：みずほリサーチ&テクノロジーズ)

注) フードテックの捉え方としては、「食品」を対象とした狭義的な定義と「食品」に係るフードチェーン全体(生産から廃棄・再加工、までを対象とした広義的な定義がある。一般的には、広義的に捉えることが多い。

## ■県内での事例

○代替肉

米久(株)(沼津市)



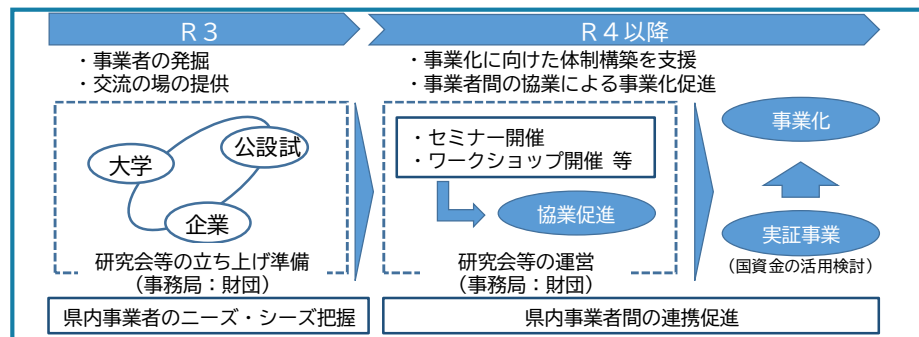
大豆を使用した代替肉

○CNFによる消費期限延長

(株)田子の月(富士市)



「カルボキシメチル化セルロースナノファイバー」により、ふわっと感、しっとり感を付与し、日持ちを延長



## ○想定例

ポイント	テーマ例
・社会課題解決	加工・保存等に関する新技術開発
・サステナビリティ	食品ロス削減(フードチェーンの最適化など)



- ・研究会等の活動を通じて、複数事業者が連携して取り組む技術開発や実証事業等を支援
- ・本活動を通じ付加価値労働生産性の向上を図る

# 戦略3 「いどむ」データヘルスの実践による健康機能の維持・増進

## 戦略計画 の内容 Plan

### 1 戦略の内容

新たに設置するリビングラボを活用し、健康状態に応じた健やかで美しい体づくりを目指したヘルスケアを実践するほか、食の基本であるおいしさを追求し、健康機能の維持・増進を図ります。

### 2 主な取組

- データヘルスを活用したプラットフォームの構築
- あらゆる健康課題に対応した製品・サービスの開発
- おいしく、健康をもたらす製品
- ヘルスケア産業の創出
- 健康的な食の確立と普及
- 健診など予防対策の充実

## 取組実績 Do

### 1 取組状況

- 通いの場を中心にリビングラボを展開し、ウェアラブル端末による日常生活下での活動データや食事傾向データ等を活用した開発製品の実証フィールドとして活用
- 新たなヘルスケアサービスの創出のため、ビジネスモデル構築をサービス実証を含めて支援
- 飲食店や配食業者などの健康食をキーワードとした新たな商品開発を支援
- 食育や栄養指導による健康づくり

### 2 取組実績（R3年度）

- ◇ リビングラボにて、地域企業によるモニタリングやワークショップ等を実施
- ◇ 企業によるリビングラボの利用を促すため、「リビングラボ友の会（ビジネス）」を立上げ、周知を強化
- ◇ 健康食ビジネスモデル創出業務委託：3件、介護予防ビジネス実証：2件
- ◇ 健康食メニュー開発（14事業者が健康配慮メニューを開発、スマートミール認証支援3件）
- ◇ 各機関において食育や食をテーマとした事業を実施し、健康づくりを支援

## 進捗評価 Check

- ✓ コロナ禍により、食や運動などの生活習慣を通じた健康維持・増進への消費者の関心は高まっている。
- ✓ リビングラボの利用希望企業は少なく、友の会（ビジネス）に参加する企業の多くが食品企業である。
- ✓ 健康メニュー等の開発は積極的に進んでいるが、健康データに基づくサービスの創出が進んでいない。

## 来年度以降 に向けて Action

- リビングラボの窓口を県産業振興財団に移管し、コーディネータを配置するなど、食品産業に加え、幅広い業種からの参入を促す体制を構築する。
- また、補助制度の新設により、ヘルスケアサービスの事業化を促進
- 静岡社会健康医学大学院大学の研究成果を社会実装する取組（ヘルスオープンイノベーション静岡：健康福祉部）」と一体となって、健康データを活用したヘルスケアサービスの創出を図る。



静岡市 (みなくる)

【概要】

○リビングラボとは、身の回りの社会課題を見だし、解決するための新しいサービスや商品を企業や行政等が生活者との共創によって生み出す場

○静岡市地域福祉共生センター「みなくる」を活動拠点とし、地域住民から活動データ等を収集するとともに、参加者の健康増進を図る活動も実施

○収集データと実証フィールドを活用し、県内企業が行う新たなヘルスケアサービスや商品開発を支援

通いの場における健康の見える化事業

- ・通いの場に集まる地域住民を中心にウェアラブル端末 (Fitbit) を貸出し、自身の健康を見える化することにより、健康リテラシーの向上を促すとともに健康データを収集及びフィードバックを実施
- ・ウェアラブル端末 (Fitbit) のほか、食事の栄養価及びバランスや脳の認知機能など、取得データの種類を充実
- ・新たなヘルスケアサービスや商品を生み出す際の実証フィールドとして活用

区分	人数※	収集データ
静岡市	305人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歩数</li> <li>・心拍数</li> <li>・消費エネルギー</li> <li>・睡眠時間及び質等</li> </ul>
袋井市	54人	

※一定期間データを収集した人数 (R4年1月時点)



食事アプリ開発

- ・食事コアデータ (栄養バランス、タイミング、回数及び質等) に着目した食事管理アプリのプロトタイプを開発
- ・アプリの開発にあたっては、リビングラボを活用してモニタリングを実施
- ・今後、本アプリ及び収集データに関心を示す企業による新たなサービス創出を支援予定



栄養バランスを整える食事管理アプリ

世代等による食事傾向データの収集

- ・地域住民を中心に食事データを収集、蓄積し、食事パターンと食習慣の課題の解析を実施 (約300人)
- ・フードモデルの組み合わせから栄養価を測定できる食育SATシステムにてデータ収集
- ・世代や性別などによる食事の食品構成の特徴や傾向をデータ化し、ヘルスケアサービス創出を目指す企業等とのサービス開発を検討



食育SATシステム

## 健康サブスクランチの商品化 (モニタリング)

### ○飲食事業者による健康食ランチのサブスクリプションサービスの開発

対象：社会人 (壮年期)  
 人数：15名  
 内容：サブスクリプションランチとして、毎週1回のランチを4週間食べ、アンケートに回答する →アンケート結果をもとに、商品化を検討



## だしを活用した健康効果の検証 (モニタリング・ワークショップ)

### ○だし専門メーカーによるだし活用ワークショップの開催

対象：1日1回以上味噌汁を作り、飲むことができる人  
 人数：15名  
 内容：だしパックを使い、味噌汁の塩分濃度変化やウェアラブル端末による数値の変化を自身で観察する →意見等をもとに、今後の商品開発に活用



## 緑茶成分の睡眠及びストレスへの影響評価 (臨床試験)

### ○大学による緑茶の健康面への影響評価 (睡眠及びストレス)

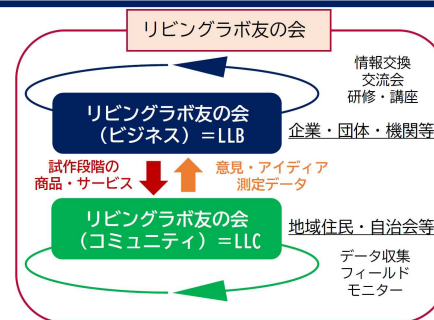
対象：20歳以上の健康な人  
 人数：84名 (二重盲検ランダム化比較試験)  
 内容：指定する緑茶を飲み、ウェアラブル端末による睡眠の質の確認、唾液検査及び調査票・アンケートにより評価する。 →緑茶の機能性を論文化 (エビデンスづくり)



## リビングラボ友の会 (ビジネス) の立上げ

### ○事業者向けにリビングラボ説明会を実施

・R3年8月に企業主体の「リビングラボ友の会 (ビジネス)」を立上げ (会員：43事業者 R4.1月現在)



事業者向け説明会

# ○戦略3 取組事例③-1 事業化 (新しい健康サービスやビジネスモデルの創出)

## ①健康経営推進企業向けオンラインによる健康コンテンツ提供システム

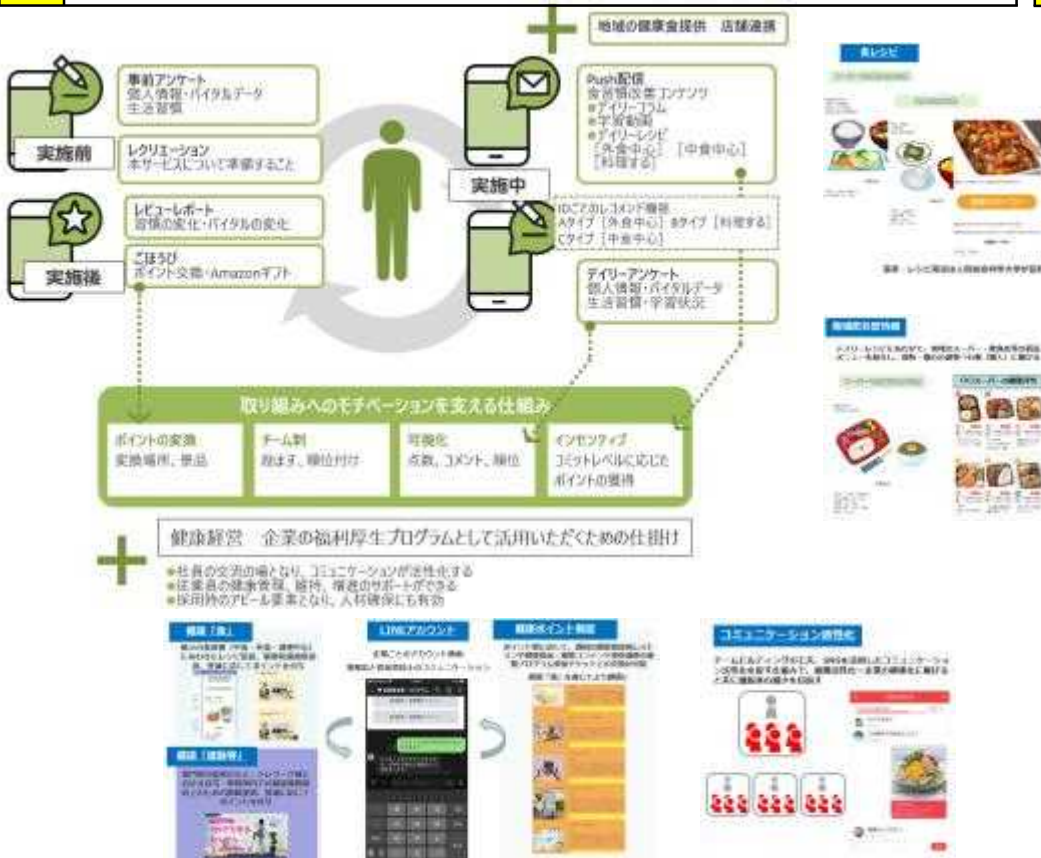
## ②運動能力向上を支援するジュニアアスリート向け食関連サービス提供システム

概要

- 健康経営推進企業向けにレシピ提供や運動等の健康関連コンテンツを提供するシステム
- 利用ポイントにより、健康関連商品を提供する飲食店等につなげたり、チーム制など継続できる仕組みを構築

概要

- プロアスリートへの指導で培った食事マネジメントの知見を活用し、ジュニアアスリートをモデルケースとした運動能力向上を支援するオンライン中心のサービス
- 本コンテンツを活かした広告事業の構築



### ■実証と今後の展開

健康経営企業の従業員約100名を対象にトライアル実証（3か月間）を実施し、健康改善効果の測定やアンケートを実施 →事業化（自走化）

### 教材、食レシピや動画コンテンツ



### スポーツ栄養学教材



### トレーニング教材



### ■実証と今後の展開

ジュニアアスリートやその関係者の約300名を対象にトライアル実証を実施し、意識改革や行動変容を評価 →事業化（自走化）



## ③静岡ブランド健康食の開発と活用

概要

- ・静岡ブランド健康食の設計とそれを活用した新たな外食・中食・配食サービスモデルの創出
- ・ビジネスモデルの収益性の検討

○静岡ブランド健康食（地域素材を活用した健康訴求性の高い（＝スマートミール認証規格基準を満たす）メニュー）の開発とビジネス展開

### 1 静岡ブランド健康食の普及

#### (1) メニュー開発

- ・静岡ブランド健康食メニューを大学と共同開発（4事業者）

#### (2) スマートミール認証取得支援

- ・事業者向けのセミナー開催



スマートミールに関するセミナーの開催



サブスクランチのメニューの一例

### 2 壮年期向け健康メニュー開発とビジネス化

- ・健康食サブスクリプションサービスモデルの開発
- ・モニタリングによる健康と食に関する意識変化と収益性の検討

### 3 高齢者向け健康メニュー開発とビジネス化

- ・筋力維持や認知機能維持に必要な栄養素と食品成分を含む食材を活用したスイーツ等の開発
- ・テスト販売による収益性の検討

#### ■今後の展開

開発メニューを活用した事業展開  
(健康に配慮した食事提供サービスによる差別化)

## ④高齢者見守りデバイス、アプリによる健康サービス提供システム

概要

- ・見守りデバイス等から利用者の環境及び健康関連データを収集し、最適な栄養、食事をレコメンドするアプリ開発
- ・利用者の健康状態に最適な栄養情報や宅配弁当をマッチングするアプリ・システムを構築

下記①～④のサイクルを繰り返すことで、食生活の改善が図られ、健康増進・フレイル予防につながる。



#### ■実証と今後の展開

- ・120名程度で1か月間実証
- ・高齢者見守り支援デバイスから収集したデータとの組合せからフレイル状態を感知するフレイル予防サービスの構築へ

## ⑤高齢者の転倒事故リスクAI予測・転倒予防介入システムの開発

概要

- ・高齢者の介護記録や活動量等のデータから、転倒リスクの高い高齢者を早期かつ正確に予測するシステムを開発
- ・転倒リスク群に対する、転倒事故予防の介入プログラム開発

研究開発・実証

事業化

高齢者の活動量と転倒の関連検討

- ・転倒事後予測モデル精度向上
- ・転倒予防のための介入モデル構築

新たな介護事業者向け情報提供サービス構築



○県内の飲食・食品加工事業者等による「健康食」をキーワードとした商品開発を支援



一般社団法人日本医食促進協会  
と開発：8事業者

医学・栄養・調理に関する知識を習得し、管理栄養士、医師、調理師などの専門家の助言を受けながら、健康に配慮したメニューを開発



社会福祉法人  
聖隷福祉事業団

『しずおかウエルネスごはんプロジェクト』：6事業者

健康診断事業を展開する聖隷福祉事業団の管理栄養士とともに、健康に配慮したメニューを開発



○スマートミール（「健康な食事・食環境」認証制度）のメニュー開発及び認証取得を支援



- 健康づくりに役立つ栄養バランスのとれた食事。
- 一食の中で、主食・主菜・副菜が揃い、野菜がたっぷりであり食塩のとり過ぎにも配慮した食事

Smart Meal  
スマートミール

複数の学協会からなる「健康な食事・食環境」コンソーシアムが認証を行う。認証を受けた施設は、「健康な食事・食環境」のマークを使ってメニューやPOP等で「スマートミール」を提供している店舗であることをアピール可能

外食認証



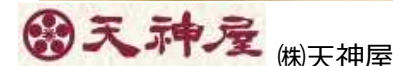
レストラン浮殿



ホテルクエスト清水



中食認証



# ○戦略3 取組事例⑤ 健康的な食の確立と普及（食育等）

## ふじえだヘルシー認定店

（藤枝市）

### 食を通じて健康づくりを応援する 店舗を認定

**認定店：29店（R3.11現在）**

- ・認定された店舗では、バランスの良い食事がとれるメニュー、野菜をたっぷりとれることができるメニュー、減塩の表示があるメニュー、地元の食材をつかったメニューの飲食や購入をすることが可能



## 地産地消フェア

（県地域農業課）

- ・スーパーマーケットや直売所等が県民の日（8月21日）を中心に「地産地消フェア」を実施

- ・県産食材のPRと消費拡大を推進

- ・実施企業数：**12企業、230店舗**



ふじのくに  
地産地消  
SHIZUOKA

地産地消シンボルマーク

## こどもへの食育教室

（県健康増進課・静岡県健康づくり食生活推進協議会）

- ・対象：幼児、児童とその保護者
- ・重点テーマ：減塩、野菜摂取、緑茶を飲む習慣の定着
- ・内容：普段の食生活で実践できる知識を伝えるため調理実習等を実施
- ・開催実績：**年間50教室程度**



## 栄養はなまる弁当

（浜松ウエルネス推進協議会）

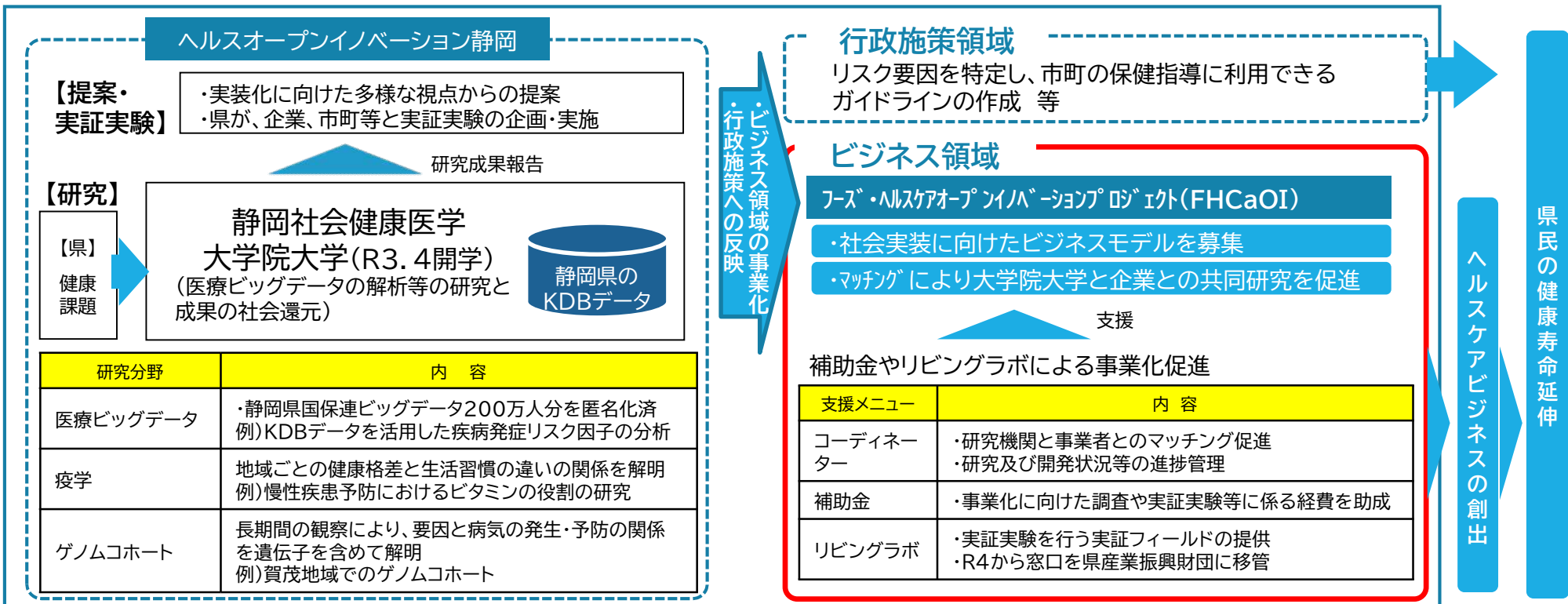
フレイル予防など市民の健康寿命延伸を応援する「栄養はなまる弁当」シリーズを浜松ウエルネス推進協議会の参画企業3者（保健事業者、弁当製造業、地元スーパー）が連携して、製造・販売。地元の新鮮な野菜を豊富に使用するとともに、スマートミール認証を取得



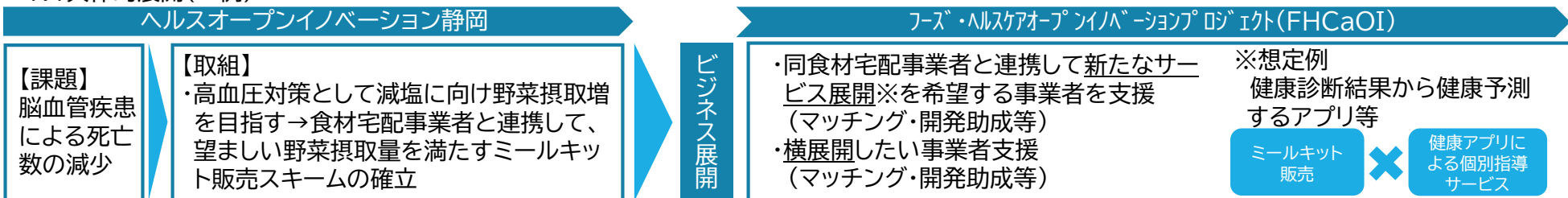
10食品群を満遍なく食べることで  
フレイル予防に役立つ栄養素を摂取

# ○戦略3 今後の取組 (静岡社会健康医学大学院大学と一体となったヘルスケアビジネスの創出)

- ・リビングラボの利用希望企業が少なく、健康データに基づくサービスの創出が進んでいない。
- ・そのため、リビングラボの窓口を県産業振興財団に移管し、幅広い業種の利用を促すとともに、補助制度の新設等により、ヘルスケアサービスの事業化を促進する。
- ・また、静岡社会健康医学大学院大学の研究成果を社会実装する取組 (ヘルスオープンイノベーション静岡：健康福祉部) と一体となり、健康データを活用したヘルスケアサービスの創出を推進する。



<R4具体的展開(一例)>



# 戦略4 「とどける」 社会の環境変化を踏まえたマーケットインによる販路拡大とサービスの提供

## 戦略計画 の内容 Plan

### 1 戦略の内容

多様なライフスタイルや超高齢社会をビジネスチャンスと捉え、市場が求める製品開発やサービス展開を積極的に支援し、新たな販路を拡大します。

### 2 主な取組

- マーケットインの発想に基づく販路開拓
- 社会の環境変化を踏まえたサービスの提供

## 取組実績 Do

### 1 取組状況

- 展示商談会への出展支援及び販路開拓・拡大アドバイザーによる支援
- コロナ禍での支援（デジタルを活用した展示会、セミナー等）
- 社会環境、消費者動向を踏まえた販路開拓事業やマッチング支援の実施
- 自治体による地域ブランディングや個別商談会の開催

### 2 取組実績（R3年度）

- ◇ 各種展示商談会への出展支援（6回、延べ32社）
- ◇ 販路開拓・拡大アドバイザー商談成立件数（173件：R3.12月末）
- ◇ 東京駅地下街にてテストマーケティングを実施（22社38品目）
- ◇ 地域の魅力を伝えるブランディング（「頂」「静岡おみやプロジェクト」「藤枝セレクション」等）
- ◇ DXを活用した新たなマッチングシステムとして、「バイ・シズオカ オンラインカタログ」を整備

## 進捗評価 Check

- ✓ 各種展示商談会への出展支援や販路開拓・拡大アドバイザーの支援により販路拡大を進めることができた。
- ✓ 首都圏におけるマーケットニーズや商品に関する課題を把握できた。
- ✓ 引き続き、コロナ禍による消費スタイルの変容（需要面（時短、中食、ニッチ市場）、流通面（スーパー、コンビニ、ECの好調）の変化）に対応した支援が必要。
- ✓ 地域ブランディングの活動を通じて、地域の魅力を伝える商品開発を推進した。

## 来年度以降 に向けて Action

- 展示商談会やアドバイザーによる販路開拓・拡大支援の継続、テストマーケティングを通じて得られた課題への対応支援など、マーケットニーズを踏まえた個別商品のブラッシュアップを図る。
- バイ・シズオカの推進やしずおか食セレクション ロゴマーク「頂」を活用した販路拡大等により、地域全体のブランド力の向上を図る。



第12回化粧品開発展 東京

### 【概要】

- 首都圏で開催される展示商談会に静岡県ブースを設置
- バイヤーと企業のマッチング増加に向け、専門の講師を招いたセミナーを開催
- 首都圏でのテスト販売及び商品のブラッシュアップなど新たな販路拡大に向けた取組を支援
- オンラインカタログの整備やオンライン商談会などDX技術を活用した販路拡大

## 展示商談会への出展支援

### ○静岡県ブースを設置

#### <食品関連>

- ・総合食品展示商談会（2社、商談4件）
- ・食品開発展2021（6社、商談49件）
- ・通販食品展示商談会（10社、商談83件）

#### <化粧品・加工機械関連>

- ・化粧品開発展 東京2022（7社、商談741件）
- ・しずおかコスメマルシェ in新静岡セノバ（6社、来場者数450名）



食品開発展2021

## バイヤーとの商談

### ○商談に向けたセミナーの開催

#### 【R3実績】

- ・「商談力向上セミナー」の実施（10月29日）  
演題「展示会出展に向けての基礎情報整理法」  
大井川商工業研究センター／参加者40名



### ○個別商談会の開催

- ・多数のバイヤーと企業のマッチングを実施
- 【R3実績】（マッチング数）
- ・焼津市 44社、114件
- ・藤枝市 19社、24件
- ・静岡市 令和4年2月25日（金）開催予定



焼津市商談会

# ○戦略4 取組事例② 販路開拓支援

## 自治体によるブランディング

(県マーケティング課・静岡市・藤枝市)

### ○しずおか食セレクション「頂」

(県マーケティング課)

- ・県産食材のブランド力向上を図るため、愛称とロゴマーク「頂」を策定
- ・首都圏スーパー「ヤオコー」での静岡フェアの開催や、コンビニと連携して「頂」ロゴを活用した新商品開発等を実施



「頂」ロゴマーク



スーパー「ヤオコー」でのデビューキャンペーン



セブンイレブンでの新商品開発

### ○「静岡おみやプロジェクト」

(静岡市)

地域資源を活用し静岡の魅力を伝える商品開発により、個店をサポート  
(令和3年度採択：5件)



### ○「藤枝セレクション」

(藤枝市)

地場産品の中から、藤枝を代表する商品を認定し、藤枝の名を全国に発信する取組 (令和3年度応募：34件)



## D Xを活用したマッチング支援

(県マーケティング課)

### ○「バイ・シズオカ オンラインカタログ」の整備 (R3.7~)

オンライン上に、県産農林水産物やその加工品を掲載する「バイ・シズオカ オンラインカタログ」を整備し、オンライン商談会の開催等により、国内外での販路拡大を促進。



公開500商品 以上( R4.1時点)

## マーケットニーズの把握

(フーズヘルスケアオープンイノベーションセンター)

### ○首都圏テストマーケティングの実施

東京駅構内の店舗でテスト販売を実施し、販路開拓や商品のブラッシュアップを支援。

【テスト販売】

10月2日~12月15日

(1品につき2週間陳列)

参加事業社：22社 (計38品)

⇒大手バイヤーとの取引につながる事例あり。(1社2品)

また、販売結果報告レポートを個別面談によりフィードバック



テスト販売の様子

【今後の取組】

販売結果レポートをもとに、味、仕様、デザインの開発を支援する。

# 戦略5 「そだてる」 産業人材等の育成と開発環境の充実によるクラスター形成

## 戦略計画 の内容 Plan

### 1 戦略の内容

地域の競争力強化を目指して、産業人材の育成、開発環境の充実に努め、製品開発力の高い企業などが集積する食品関連クラスターを形成します。

### 2 主な取組

- 大学等との連携による実践教育
- 企業誘致の促進

## 取組実績 Do

### 1 取組状況

- 地域企業内で新規機能性食品等を開発する人材を養成
- 地域企業の中核人材を対象に、データサイエンスの実践スキルの獲得を支援
- 食品関連産業の積極的な企業誘致（助成での優遇:用地（20%→30%）,建物等（7%→10%））
- プロジェクト関連事業の実施に必要な設備資金・運転資金を支援（利子補給）

### 2 取組実績（R3年度）

- ◇ 総合食品学講座 全部受講者：24名（定員26名）
- ◇ 健康イノベーション教育プログラム（6科目） 受講者：59名（目標80名）
- ◇ 新規・地域産業立地事業費補助金 採択：食品関連産業 6社
- ◇ クラスター分野支援貸付（利子補給率1/2、0.67%まで）10件 9億7,384万円（R3.11末現在）

## 進捗評価 Check

- ✓ 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、人材育成数は予定を下回る実績となった。
- ✓ 食品関連産業6社が工場を新設又は増設し、業務開始予定であり、製造品出荷額の増に寄与
- ✓ 利子補給制度は、宇宙食やCNF入り製菓など商品開発力の高い企業の支援につながっている。

## 来年度以降 に向けて Action

- 受講者アンケートの分析による講座内容の見直しや、周知の強化により、受講者数の増加につなげる。
- 引き続き、SDGsやDXなどの社会情勢の変化を取り入れた講座内容を充実させることで、高度な産業人材の育成を図る。
- 立地環境や優遇制度をPRし、食品関連産業の誘致を図る。
- クラスター分野貸付を継続し、地域企業の事業活動を活性化させる。

# ○戦略5 取組事例 人材育成、クラスター形成



総合食品学講座

## 【概要】

### <人材育成>

○H20年度から「総合食品学講座」を開催し、これまでに1,000人を超える人材を育成

○R2年度から新たに「健康イノベーション教育プログラム」を開講

### <クラスターの形成>

○食品関連産業に対する助成金の優遇  
・用地20%→30%、建物等7%→10%

○富士山麓フロンティアパーク小山を造成、R3.4全10区画の分譲が決定  
(食料品会社、化粧品会社含む)

○クラスター分野支援貸付  
・利子補給率1/2、0.67%まで

## 県立大学との連携による実践教育

### ○総合食品学講座 (フーズ・ヘルスケアオープンイノベーションセンター)

・県立大学等と連携して、機能性食品等の開発人材を育成

<R3実績> 7月～10月

- ・IoT推進ラボの見学を新たに実施
- ・全14日間30講座：全部受講24人

### ○健康イノベーション教育プログラム (県立大学)

・データサイエンスの実践スキルの獲得を支援

<R3実績> 10月～2月

- ・「健康と食」等の6科目を展開、受講者 59人



実習の様子



オンラインでの授業の様子

## 企業誘致の促進

### ○新規・地域産業立地事業費補助金

・県と市町が連携して、本県の立地環境や支援策をPRして、企業立地に取り組む (県企業立地推進課)

<R3実績>

- ・食品関連産業 6社 (工場を新設又は増設)

### ○クラスター分野支援貸付

・プロジェクトを推進する地域企業の事業実施に必要な設備資金、運転資金の利子を補給 (県商工金融課)

<R3実績> ※11月末時点

- ・件数：10件、金額 9億7,384万円



JAXA認証食品「やきとり缶詰」  
ホテイフーズコーポレーション(株)  
ほか



# 戦略6 「ひろめる」「食の都」の内なる国際化と魅力ある静岡の食文化の発信

## 戦略計画 の内容 Plan

### 1 戦略の内容

本県を訪れる誰もが、国籍、宗教を問わず、静岡の食と食文化を楽しむことができる環境を整備し、静岡の食の魅力を広く発信します。また、静岡の食を海外に向けて積極的に売り込み、輸出の拡大につなげるため、国際規格に対応した製品開発についても積極的に支援します。

### 2 主な取組

- 「食の都」の内なる国際化の推進
- 魅力ある県産品の輸出拡大

## 取組実績 Do

### 1 取組状況

- ハラール対応の店舗の把握とインターネットによる情報提供、ピクトグラムの導入促進
- 香港におけるテストマーケティングと購買データに基づく商談の開催
- 海外販路開拓（海外見本市出展、販売促進媒体作成等）に取り組む県内中小企業を支援（助成金等）

### 2 取組実績（R3年度）

- ◇ 「ハラール・ポータル」による情報提供 掲載149店舗（1月末現在）
- ◇ 越境ECを活用した化粧品海外市場調査 2社・4商品
- ◇ 香港テストマーケティング（R3.10～R4.1、自動販売機で12社30商品販売、オンライン商談会）
- ◇ 県産品海外販路開拓ニューノーマル創出事業でDXによる海外販路拡大手法を実践
- ◇ ふじのくに通商エキスパートによる海外販路開拓支援（県海外駐在員事務所に設置）
- ◇ 中小企業海外市場開拓支援事業（補助率1/2、限度額50万円） 採択実績23社
- ◇ 加工食品輸出スタートアップ支援事業（補助率2/3、限度額200万円） 採択実績2社

## 進捗評価 Check

- ✓ 県内居住外国人に対し、ハラール対応店舗や教材の開発などにより、積極的に情報提供している。
- ✓ テストマーケティングでは、データに基づく商談により、複数の成約につながっている。
- ✓ プロジェクトを推進する県内支援機関において、着実に事業展開が図られている。
- ✓ 国内外から人を呼び込むためには、本県独自の食文化の発進や地域全体の活性化戦略が必要

## 来年度以降 に向けて Action

- 引続き、新型コロナへの対応も踏まえたDXによる販路拡大支援を実施する。
- プロジェクトを推進する県内関係機関との協働により、県産品の輸出拡大を図る。
- ハラール対応や、ガストロノミーツーリズムの展開などにより、本県地域資源の高付加価値化を図る。24

# ○戦略6 取組事例① 海外販路開拓及び輸出支援



インフルエンサーによる商品紹介

## 【概要】

- デジタル技術を活用した海外販路拡大手法の実践など、新しい取組を開始
- 越境ECサイトを活用した化粧品のテスト販売を実施
- コロナ禍での県産品の輸出拡大に向け、オンライン商談や遠隔で売上データを確認できる自動販売機によるテストマーケティングを実施
- 県内の外国人を含め、誰でも食を楽しめる「食の都」の内なる国際化を推進

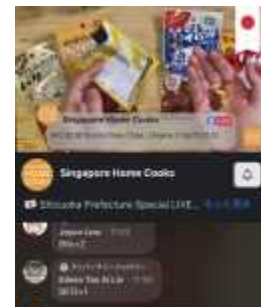
## 海外販路開拓支援

### ○DXによる海外販路開拓支援

- ・海外のオンラインプラットフォーム等と連携した県産品の輸出拡大スキームを構築（県マーケティング課）
- ・5カ国（台湾、マレーシア、シンガポール、中国、ベトナム）でライブコマース等を実施

### ○海外展示会出展支援

- ・「中国国際輸入博覧会」静岡県ブースを出展（県マーケティング課）  
（県ブース：10社・16商品出展、ブース訪問者900人）
- ・海外見本市出展、販売促進媒体作成等に助成（県企業立地推進課）  
（23社（うちフーズ関連10社））



ライブコマースの様子

## 越境ECを活用した化粧品海外市場調査

### ○中国ECモール内でのプロモーション

- ・人気モール内に静岡県商品専用Webページを掲載し、インフルエンサー等によるプロモーションを実施  
（フーズ・ヘルスケア オープンバージョンセンター）



<R3実績>  
2社4商品

## 香港における食品テストマーケティング

### ○自動販売機での販売・オンライン商談会

- ・購入者のデータを収集・分析したのち、現地バイヤーとオンライン商談会を実施

<R3実績> テスト販売：12事業者、30商品

<R2実績> テスト販売：16事業者、32商品（10商品成約）

<R元実績> テスト販売：12事業者、28商品（10商品成約）



テストマーケティングで成約となった商品

## 多様な食文化に関する情報発信

### ○ムスリム向けウェブサイト「ハラール・ポータル」の運用

- ・「ハラール・ポータル」でムスリム対応可能な飲食店、ハラール食材取り扱い店舗などの情報を発信
- ＜掲載店舗＞ 149店舗（R4.1月末現在）

### ○ピクトグラムの導入支援

- ・イラストやマークでわかる表示「ピクトグラム」を使用した食品統一表記「フードピクト」をフードメニュー等に導入する支援（データ・マニュアルの提供）
- ＜導入店舗＞ 49店舗（R4.1月末現在）



ハラール・ポータル



フードピクト

## ガストロノミーツーリズムの展開

### ○推進体制の強化

- ・生産者、料理人、ツーリズム等の専門家による有識者委員会の設立
- ・料理人のサン・セバスチャン料理専門大学での研修

### ○SDGsの取組に昇華するための仕組みづくり

- ・食に関するSDGsの取組促進
- 仕事人と生産者が連携した食のビジネス化支援
- SDGs料理店、SDGs生産者の認証

### ○和の食、食文化の魅力の情報発信・顕在化と観光サービスの創出

- ・専門コーディネーターの配置
- ・一流料理人などを活用した物語性のある情報発信（動画作成ほか）
- ・県産食材の魅力を体験できる仕事人レストランフェアの開催
- ・「食の都」ポータルサイトによる情報発信



県産食材の魅力発信  
仕事人メニューフェア



天空の茶の間

# プロジェクト全体における成果指標の状況

成果指標	目標値	現状値
静岡県の健康寿命	全国第1位	男女ともに全国5位 (男性73.45歳、女性76.58歳)
食料品等の付加価値労働生産性	全国第1位	全国第4位 (R元実績)

活動指標	目標値	現状値 (R3. 12末)		評価
産学官金連携による研究件数	90件/年	78件	県工業技術研究所と静岡県立大学による共同研究等	○ 達成見込
事業化件数	40件/年	27件	ポケマルベジカレー、機能性表示食品「あおしまみかんジュース」等	○ 達成見込
うち、ヘルスケア	5件/年	11件	スマートミール基準を満たした食事メニュー等	◎ 達成済
販売促進支援件数	110件/年	82件	食品開発等出展支援件数	○ 達成見込
産学官金連携による人材育成数	100人/年	83人	総合食品学講座等受講人数	× 未達